

## Vol.7 「ランキングは好き？」

WIPO PCT 国際協力部部長 夏目 健一郎

## 1. ベスト●●

長者番付、スポーツランキング、CD ランキング、書籍ランキングなどなど、ランキングはあちこちにあふれている。更にはレストラン、スイーツなど独自の重み付けをしてランキングを算出するものまで様々である。

## 2. 日本は何位？

世界に目を向けてみても各種のランキングがある。人口、面積、GDP など統計的データに基づくランキングから、世界で最も住みやすい都市など独自の分析をした上でランキングをつけるものもある。

ダボス会議で有名な世界経済フォーラムは毎年、国際競争力指標というランキングを発表している。これによれば日本は世界で第6位である。

## 3. グローバル・イノベーション・インデックス

WIPO といえば特許、商標、意匠、著作権などの知的財産を扱う国際機関であるが、条約を運用したり、新たな条約策定に取り組んだりといったことがすべてではない。国連ファミリーの中で唯一の知的財産に特化した専門機関として、WIPO は知的財産に関する情報とその分析に関して世界で頼られる情報源になりた

いと考えている。知的財産に関する国際シンクタンクといったところであろうか。

特許、商標、意匠といった知的財産に関する統計データはもちろんのこと、統計のようなデータに留まらず分析を更に加えたレポートを WIPO は作成している。一つの例がグローバル・イノベーション・インデックス(Global Innovation Index : GII)である。GII は WIPO と米国コーネル大学そして INSEAD(仏、シンガポール、アブダビにキャンパスを持つビジネススクール)が共同で作成している報告である。GII は世界各国のイノベーション能力を総合的に分析するものであり、イノベーションに関してインプットとアウトプットの両側面から各国の現状を分析する。

インプットの側面として(1)制度、(2)人材及び研究開発、(3)社会基盤、(4)市場の洗練性、そして(5)ビジネスの洗練性という観点から評価する。具体的には、例えば制度の観点としては、政治的安定性、政府の効率性といった政治的環境、知的財産のみならず法執行、裁判所などを含めた法制環境、そして起業のしやすさなどのビジネス環境といった観点からそれぞれ評価する。人材及び研究開発としては、GDP に占める教育費の割合、教育に費やされ

る期間、生徒一人当たりの政府の教育費支出、生徒と教師の比率、科学技術分野の大学卒業生の割合、GDP に占める研究開発費の割合などを数値化する、といった具合である。これらインプットの側面は、イノベーションを生み出すための環境に関するものである。

またアウトプットの側面としては、(1)知識、技術のアウトプット、(2)創造性のアウトプットの二つの観点がある。技術、知識のアウトプットとしては、国内特許出願、PCT を通じた国際特許出願、論文などの数、ロイヤリティ、ライセンス収入などが挙げられる。創造性については、商標出願、文化的・創造的サービスの総貿易に占める割合、映画産業、エンターテイメント、メディア、出版などの活動を分析する。

これらそれぞれの関連を指標化して、総合的にグローバル・イノベーション・インデックスとするのである。もちろん、総合得点の上から順番にランク付けされる。最新版は2015年9月に発表されたが、ちなみに日本は141カ国中19位であった。

ランク付けは数字で示されるので分かり易いではあるが、ランクに一喜一憂してもらうことが必ずしも目的ではない。GII では総合ランキングを算出するために、上記のような各種観点で分析を行っている。したがって、自国に

関して、これらの各指標の分析・評価を通じて、自国がどの分野ですぐれていて、どの分野が弱いのかということが把握できる。例えば日本の場合は、人口に対する特許出願数は世界1位、GDP に占める研究開発費は世界3位にランクインしている一方で、人口に対する起業の数では世界62位、直接外国投資のGDP に占める割合では世界128位に留まるなど、研究開発投資が行われ特許出願もなされている一方、新たなビジネスの立ち上げにまでは必ずしも結びついていないということが分かる。

このように GII は、各国政策担当者が強みと弱みを把握し、強みを更に伸ばし、弱みを克服して更なる発展に資するような材料となることが期待されている。

## 4. そしてスイスは

ランキングはそれ自体に踊らされるべきものではないが、一つの分析として興味深く見ることはできる。ちなみに WIPO グローバルインデックス2015でトップにランクされた国はスイスである。また、世界経済フォーラムの競争力ランキングの一位もスイスである。もちろん、どのような基準で評価するかによってランキングも変わり得ることは当然であるが、こんなところにスイスのしたたかさが見え隠れするような気がする。

## Ken-Ichiro Natsume

日本国特許庁にて審査官、審判官としてエレクトロニクス、コンピュータ関連の審査、審判業務に携わる。その間、カリフォルニア工科大学客員研究員、特許庁国際課、総務課、調整課審査基準室、外務省経済局、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部などにおいて、特許行政、国際交渉にも従事。2012年にWIPO日本事務所所長に就任し、2014年4月から現職。